



3月6日

---



泊まっている宿は日本人宿で、全部で10人ほどの日本人の若者が泊まっている。日本人ばかりだから、みな仲もよく言葉も通じるし、ゆっくり滞在していた。

ことは昨日起こった。私は昨日が生理が一番重い日で、一人宿に残って横になっていた。宿のマダムは韓国人女性なのだが、彼女と二人きりだった。

突然すごい剣幕で「日本人はなぜ従軍慰安婦問題の謝罪をしないのか」と私に怒鳴りつけた。とっさに返事ができない。たたみかけるようにマダムは日本人の戦争責任について私に質問してくる。びっくりした。日本人を相手にドミトリーを経営しているというので、親日な方だとばかり思っていた。

私は返事の仕様がなくて、お腹が痛いことを理由に部屋に戻った。

マダムはそれから一人で日本への恨みを叫び続けるのだった。マダムは、昼からこんこんと寝ていたり、一人で叫び続けたり、もしかすると、何か心に病を持っている方なのかと考えていたがどうなんだろう？

うーん。残りの滞在に若干不安が出てきた。



まだなんとなく頭痛がするので午前はカフェでだらだらコーヒーを飲んでいる。

やはり昨日のマダムのことが気になって気分の沈む朝、ふいに旅立ちのときにマイミクのやまちゃんに頂いたチョコレートを思い出した。もしものときにとっておいた。そっと箱を開く。可愛らしいチョコレートが並ぶ。一粒食べると涙がでてきた。色々な感情が渦巻いて。暗い部屋で泣きながら、チョコレートをじっくり味わって食べた。泣き終わるとさっぱりした気分。やまちゃんの魔法だ。ありがとう、やまちゃん。

明るくなると同室の女の子2人が目を覚まして、私が昨日ずっと寝ていたことを心配してくれた。今日はもう大丈夫だと明るくおしゃべりをする。宿のみんなは本当にいい人たちで助かった。しかし昨日のマダムのことは話せない。みんなひとつき以上滞在していてマダムと仲がよい。私は密告する気分で嫌な気がしたし、とりあえずは黙っておいた。みなもマダムに詰め寄られたりした経験があって黙っているのか、たまたま私がそういうことになったのかよく判らない。

今日は体調が許す限り散歩しつつ、カフェ巡りでもしてのんびり過ごします。

写真はルーブルの「天国への道しるべ」。



雨なので散歩もままならない。写真の明るいカフェでお昼ごはん。今はサンジェルマン・デ・プレ教会の近く。

マイミクさんに教えて頂いたが、現在従軍慰安婦問題がニュースでさかんにとりあげられているそうですね。マダムも韓国メディアを通じて、敏感になっていたのだろう。私は全くニュースを見ていなかったのが教えていただいて助かりました。戦争が起こるとたくさんの正しくないことが起こり、人々に傷を残す。その傷はきっと私には想像もつかないくらいの深いものだろう。そういう怒りに触れたこと。傷の深さを少しでも知ること。今回の旅では私自身も人種差別を受けることもあった。楽しいだけの旅ではないが、少しだけでも世界を実感できたのは収穫だと思う。キレイゴトかもしれないが。ニュースや本の知識じゃなくて、体験するということの圧倒的な印象は凄まじい。

今、店からフランス国旗が見える。自由、平等、博愛のトリコロール。世界に本物の自由、平等、博愛がもたらされることを。

しかし、眼鏡ブームは日本だけではないね。フランス人の女の子もみんなお洒落な眼鏡をかけています。世界的流行らしい。



地下鉄の一週間チケットを買っているし、思い付きでどこへでもいける。

雨だけれどエッフェル塔へ。前は見ただけだったので、今回はチケットを買って上がってみた。

雨にけぶるパリの街。宿の同室の女の子はパリがあまり好きではないと言っていた。でも日本に帰りたくなくてなんとなくずるずるひとつき以上いるのだと。都会はどこも同じだし汚いし疲れるって彼女は言った。私は普段田舎暮らしなのでたまの都会は刺激的だ。

世界には行き場所を求めてさ迷う旅人に満ちている。私すらいつかどこかへ移り住みたいと、その場所を探しているような気がする。

一生安住の地がみつからなくてうろうろする人種はいるのだろう。私はどうなのかな？

パソコンがつながる土地ならどこでも生きていけそうな、やっぱり家族がいないとダメなような。

3月7日

---



オペラを見てきた。La Juive。オペラは時々DVDで見るが、生で見るのは初めて。

当日の立ち見券を狙って一時間前に並ぶが、立ち見はないと言われてしまう。残っているのはすごく高価なチケット。迷っていると、あるおばさんがこのチケット余ったから半額で買わない？と声をかけてくれて、思いがけず安くチケットが手に入る。

オペラは圧巻。意味は分からなくても、歌声に痺れる。ソプラノ・ドラマティコの歌手が特に素晴らしい。

幕あいにはシャンパンを飲む。恐らく私のようなラフな格好の人間が入っているのだからドレスコードは設けられていないのだろうが、よく観察すると、ここぞとばかりにドレスアップしてきた老婦人がいたりしてときどきする。家宝の宝石みたいなのを巻いている方とか。貴婦人とはこのような方々をいうのかという感じ。

隣の老婦人に「フランス語できますか」と流暢な日本語で尋ねられた。日本語のぺらぺらなおばあさんで、しばし日本談義に花が咲いた。

全4幕。4時間半に渡る舞台が終わって帰宅した。興奮がさめない。うまく眠れるだろうか。



昨夜は結局、宿の方たちと遅くまでおしゃべりをして過ごす。

宿には、筑波大学のちょうど10くらい後輩の男子3名が泊まっていて、懐かしい大学の話に盛り上がってる。彼らは院を今年出て、それぞれの方面で活躍する。私が体育といっても馬鹿にするようなこともなく、すごく丁寧に接してくれて感激。他の、筑波じゃない男の子の、どうせ体育なんて勉強しないんでしょというからかいには私は慣れているが、その数字科の彼らがいちいち私をかばってくれるのがたのもしかった。完全に鼻根目だが筑波を出た人間に悪い子はいないと思うのだった。こういう思想から学閥が発生したのだろうな。

また早くに目が覚める。寝息と猫の気配。この宿には猫がたくさん住んでいる。

同室の一人の女の子が今日、南下を始めるそう。南フランスを巡ってイタリアへ。やはりフランス・イタリアというのは人気の国だなあと思う。



しかしパリには甘いものが好きな人には天国だろうな。ショーウィンドーに並ぶ繊細なお菓子には目を奪われる。私が甘いもの好きだったら一日お菓子屋さん巡りをするだろう。



体育系にあるまじき、とは思うものの長旅の疲れで脚がもう動かない。ハードな散歩や小旅行は断念し、残りの日程はのんびり過ごすことにする。先程地下鉄の階段を登っただけで膝が笑った。歳だどつくづく感じる。

今回の旅で初めてのスタバに入る。イタリアではついぞ一回もスタバを見掛けなかった。イギリスはスタバだらけだった記憶がある。フランスは、やはり老舗のカフェが主流。スタバをみかけて珍しいと思ったのでなんとなく入る。

注文の際、名前を聞かれ、紙コップに名前を書き、出来上がると名前を大声で呼ばれるシステム。店内に自分の名前が響き渡ったときは笑ってしまった。

韓国人マダムは、なんとなくあれから冷たい。ちゃんと目をそらさず話を聞くべきだったのだろうか。あのとき確かに私は逃げた。というか話をできるほど知識を持っていない。無知が恥ずかしいと実感したのは初めてだ。しかし戦争について、他の国

の人間と真剣に議論することを思うと冷や汗が出る。政治家はこのへんの緊張感にいつも縛られているのか、いや、日本の政治家には足りないような。イタリアで会った灯くんが、日本はアメリカが原爆をもうひとつ落とすと言ってきてもほいほい国土を差し出しそうで怖いと話していたのを思い出す。これは極端な例だとしても。



パリでも一等地のオペラ・ガルニエ付近を歩いていたら行列のできる店を発見する。なんだろうと近付いてみるとお寿司屋さんだった。パリで行列になるなんてただごとではない予感。もしかするとものすごく美味しいお寿司屋さんなのかもしれないと好奇心を抑えきれず、行列に並んでしまう。

入店すると浮世絵が至るところに貼ってあり、いい雰囲気。着席しメニューを眺める。ネタがサーモンとマグロだけ。。店にはいかにもスノッブな白人がひしめく。みなおぼつかない手付きで箸を使ってマグロの鉄火巻を食べている。観察するといかにもシャリがまずそう。しかも日本人かと思った店員の交す言葉を聞いていると全員中国人。仕方なくサーモンとマグロの刺身のもりあわせとキリンビールを注文。あまり食べ物にはうるさくない私でもまずいと断言できる刺身だった。海外の寿司屋はこのレベルなのだろうか。期待が大きかっただけにながっくり。しかもめちゃくちゃ混んでいるし荒稼ぎしているような。。値段も日本の寿司屋より高いくらいだし。これがジャパニーズ・スシだと思われていると思うとショック。まあどこの料理も多かれ少なかれ、外国ではこういう食べられ方をしているのだと思うが、日本人って外国の食事の再現が上手なほうなんだなあと改めて思った次第。

3月8日

---



昨夜、ビールを買いにスーパーへいくと、宿に昔滞在していて、今はパリに長期で住んでいる男の子2名とばったり。宿にいつも遊びにきているので顔見知りなのだ。今日も宿にくるといっているので一緒にお酒を買って宿に戻る。

宿では同室のあきこさんが酢豚を作ってみなを待っていた。

韓国人マダムと男の子2人、あきこさんと私でベルギービールで乾杯。

話題はすぐに北朝鮮の拉致問題が中心となる。ひえ！この宿では日常がこうだったのか。今回は一人ではなかったし私はじっくりマダムの話を聞いた。マダムも一方的に日本の悪口が言いたいわけではなく本当によく情勢を勉強されている感じだ。日本人男子のまささんもよく勉強していて色々発言をする。私は何も発言できないがとにかく注意深く話を聞いた。凄い濃度の高い時間だった。詳しくここに書くのはまた今度にするが、日本だけでマスコミから得ていたのとは全く異なった情報をたくさん聞いた。

マダムはちゃんと話すとおかしな人でもなんでもなかった。少し日本人と比べて自己主張がしっかりしているだけだ。そしてマダムは日本の占領下に生きていた人だった。若く見えるので考えなかったが。

ともかくも濃密な夜だった。

最初はこの宿を選んだことを後悔しそうになったが今では来て良かったと思っている。



のんびりカフェで朝食。宿は女子大の寮のノリですごく楽しい。マダムも普段はみんなに混じって冗談をとばしている。建築を見にきた子、絵を描きにきた子など目的がしっかりしている子が多くて話してもすごく面白い。

私は何をしにきたのかと聞かれ、ちゃんとした目的がないことに焦るのだった。ただの息抜きとしか答えられない。実際にそうなのだが。

昨日は美容院でネイルをフレンチネイルにしてもらった。普段、針仕事で爪を伸ばせないなので、旅の間だけの楽しみ。つけ爪をつけたのは初めて。

そして今日はこれからエステにいこうとしている。意味のない贅沢。それが旅のテーマかな。



静かにあの人のことが気になる。言葉を交すのも、少しためらいがちな近頃。地球の重さで愛して、宇宙の無重力で愛す。ねえ、もしもし。私の声はどこへ運ばれるのか。あの人には聞こえているのか。

パリの女性の間でピンク色のニットが流行しているらしい。よく鮮やかに華やかな色を見掛ける。

桜！

帰国してしばらくしたら桜が咲くことを思い出す。あの静脈の冷たさを思わせる雨の桜をそっと思う。ああそろそろ日本が恋しい。

桜。

桜。

あなたが美しい桜を見るとよいと願う。

昼に生牡蠣死ぬほど食べました。今度こそあたるかもしれません。牡蠣の神様！